

森山遺跡

(株)岡田洋ラン農場移転工事に伴う発掘調査概報

1994

三光村教育委員会

例 言

1. 本書は(株)岡田洋ランによる農場移転工事に伴い実施された、森山遺跡の緊急発掘調査事業の調査概要報告書である。
2. 調査は(株)岡田洋ランの委託を受けた三光村教育委員会が主体となり、大分県教育庁文化課の指導を受け実施した。
3. 現地では調査指導員のほかに、県文化課諸氏にご指導、ご助言をいただいた。
4. 遺構の実測と写真撮影については調査担当者の植田があたったほか、小林昭彦・吉田寛(県文化課)両氏の協力を得た。
5. 遺物の実測は担当者が行った。
6. この調査でのレベルは、丘陵頂部に任意の高さを設定し、そこからの比高差で表している。
7. 出土遺物及び関係資料は、三光村教育委員会が保管している。
8. 本書の編集及び執筆は、植田が行った。

目 次

第1章	はじめに	
第1節	調査の経緯	1
第2節	遺跡の立地と環境	3
第2章	調査の成果	
(1) 住居跡	SB 2	7
	SB 1 SB 4	8
	SB 6	9
	SB 7 SB 8	10
(2) 墳 墓	1号墓	11
(3) 貯蔵穴	SK12	12
	SK17	13
第3章	まとめ	14

插图目次

第1图	三光村内遗迹分布图	3
第2图	森山遗迹周边地形图	4
第3图	森山遗迹遗物分布图	5~6
第4图	SB2出土石器实测图	7
第5图	SB2平·断面图	7
第6图	SB1出土石器实测图	8
第7图	SB1平面图	8
第8图	SB4平面图	8
第9图	SB6出土石器实测图	9
第10图	SB6出土石器实测图	9
第11图	SB6平·断面图	9
第12图	SB7平·断面图	10
第13图	SB8平面图	10
第14图	1号墓平·断面图	11
第15图	SK12平·断面图	12
第16图	SK17平·断面图	13

写真图版

森山遗迹1号墓	15
森山遗迹SB8	16
森山遗迹SK17	16

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯

1. 調査の経過

(1) 調査に至る経過

今回調査を行った森山遺跡は、村の南側にある八面山から派生する丘陵が北に向かってのびるそのほぼ先端にある。その先端部分は丘陵がさらに二つに分かれており、北側の丘陵には周知遺跡として、北平横穴墓群がある。また、南側の丘陵には昭和62年に国道10号線中津バイパス工事に伴って調査が行われた森山遺跡があり、今回調査を行った地点は、その続きにあたる。中津バイパス沿線部はバイパスの開通と共に急激な開発が進んでおり、周辺の遺跡は破壊の危機にさらされている。

平成4年、三光村教育委員会は岡岡田洋ランから三光村大字森山に洋ラン農場の移転計画について連絡を受けた。教育委員会は岡岡田洋ランとただちに協議を行った結果、遺跡があった場合の建物の設置場所や工法の変更は可能との合意に達した。そのため早急に開発予定地区全体にわたって遺構分布調査を行い、開発との調整を行ううえでの資料とすることとした。また、重要と思われる部分についてはトレンチを設定し掘り下げを行うこととなった。

(2) 試掘調査の方法と結果

森山遺跡に対する調査は、平成4年に始まる。調査はまず開発予定地全体にわたって分布調査を行うことから始めた。しかし丘陵の大部分は、平成3年の台風19号で木の多くが倒れており、全体にわたって調査を実施することができなかった。そこで建物の建設予定地を集中的に調査した結果、丘陵南側では遺構は発見されなかったが、丘陵北側では昭和62年に調査が行われた森山遺跡がさらに広がっていることが判明した。しかし遺跡のある場所は中津バイパスとの隣接地であり、また遺跡のある丘陵の半分は既に道路建設で20m掘り下げられていたため既存道路との関係から工法の変更は困難との結論に達した。そのため遺跡は記録保存とするため発掘調査することとなった。

(3) 本調査の経過

平成5年9月より本調査にとりかかった。調査はまず発掘予定部分の表土を重機で取り除くことから始めた。調査の結果、弥生時代から古墳時代にわたる複合遺跡であることが分かった。調査面積は3,000㎡となった。

調査は平成6年2月に終了した。

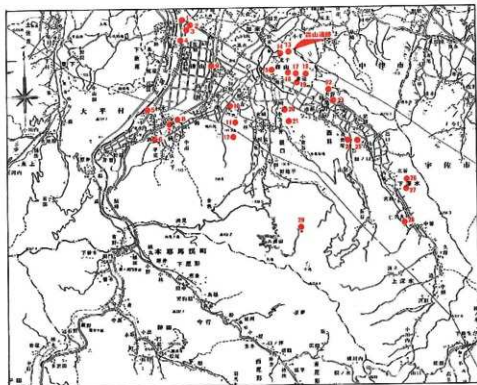
2. 調査の体制

調査主体	三光村教育委員会
調査責任者	花崎貞雄（三光村教育長）
調査指導員	後藤宗俊（別府大学教授）
調査員	渋谷忠章（大分県教育庁文化課主幹兼埋蔵文化財第2係々長） 植田由美（三光村教育委員会）
事務局	財万俊英（三光村教育委員会次長） 榎原春代（主査）
発掘作業員	藤野武志・清城玉美・上永紀代子・佐々木貞子・相良スナミ・相良トメ・ 相良ノゾ子・高畑キヨカ・川野ヨシ子・釘丸雪子・松尾初枝・秋吉富美枝・ 清水敬子・尾崎ハル子・高畑由美子・村上知文・原田和代
整理作業員	上橋厚子・乙峠里実

第2節 遺跡の立地と環境

森山遺跡は、大分県下毛郡三光村大字森山に位置し、標高は約60mを測る。この遺跡は村の両側にある八面山からのびる丘陵のほぼ先端部に位置し、遺跡からは、広く中津平野を眺望することができる。またこの丘陵の西側には犬丸川が流れ、周防灘へと注いでいる。森山遺跡の周辺には多数の遺跡も存在するが、その多くは本格的な調査がまだ行われていない。しかし近年、中津バイパスの建設や、三光村工場団地の建設などで本格的な調査も行われ、新たな遺跡の発見も相次いでいる。昭和62年に行われた森山遺跡の調査では遺跡全体の1/3の調査が行われ、弥生時代前期末から中期後半までの塚穴や土壌墓、また平安時代の火葬墓等が検出されている。

注：大分県教育委員会「中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書(3)」 1992

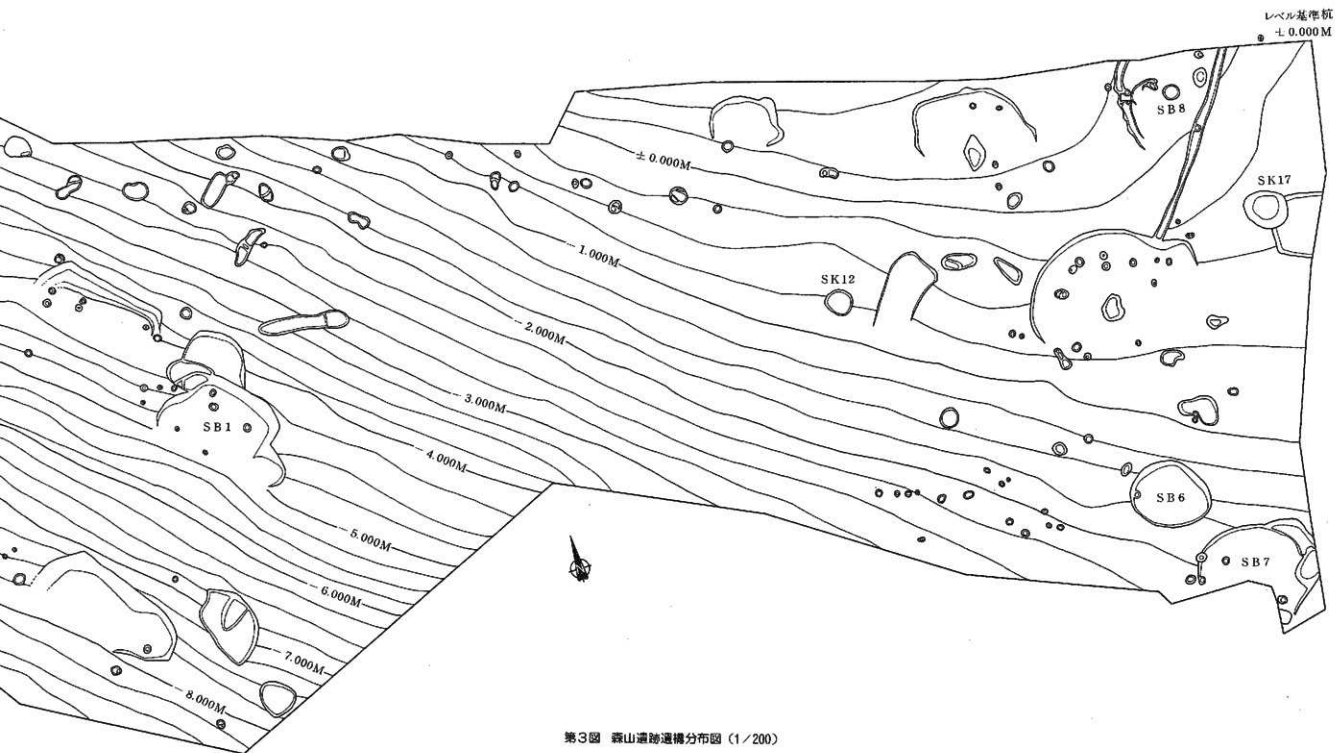


第1図 三光村内遺跡分布図(1/10000)

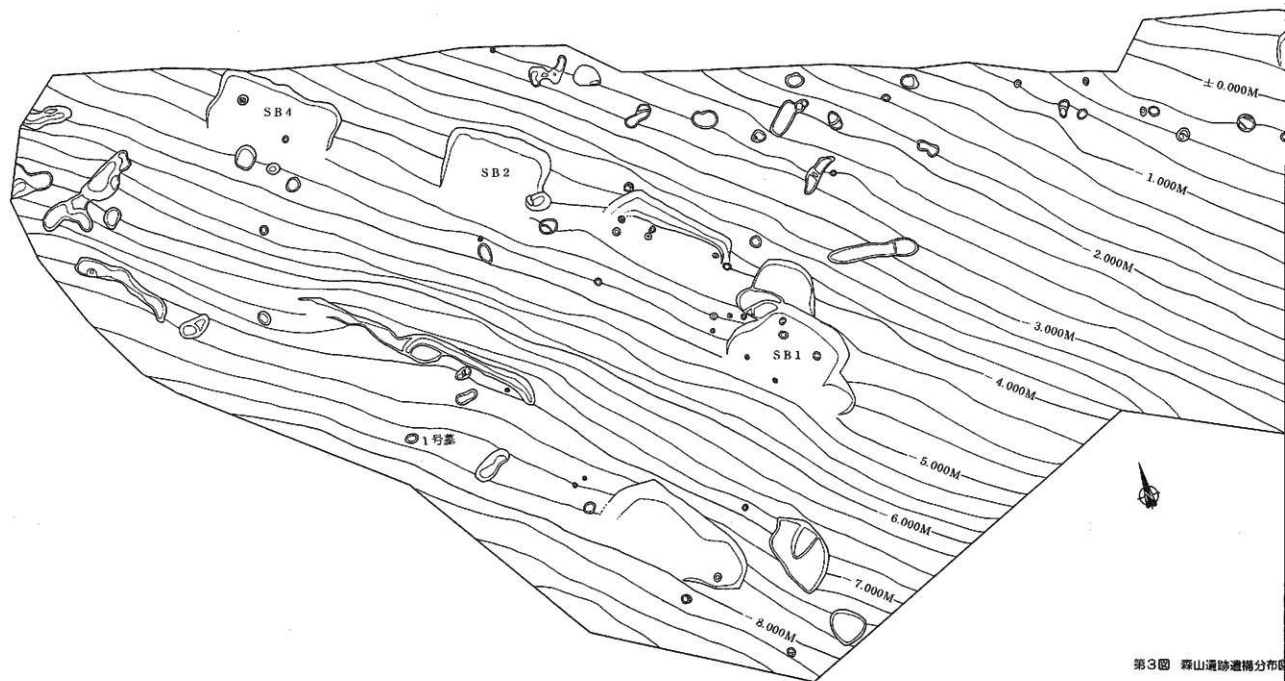
1. 上ノ原横穴墓群
2. 上ノ原遺跡
3. 佐知久保畑遺跡
4. 佐知遺跡
5. 城横穴墓群
6. 外園遺跡
7. 臼木古墳群
8. 臼木遺跡
9. 諫山遺跡群
10. 成信城跡
11. 庵ノ尾横穴墓群
12. 鴨山横穴墓群
13. 森山遺跡
14. 北平横穴墓群
15. 洗添横穴墓群
16. 美濃尾遺跡
17. 倉迫平遺跡
18. 倉迫ニツ塚古墳
19. 野辺田横穴墓群
20. 岡崎遺跡
21. 岡崎城跡
22. 三ツ塚古墳
23. 天神原横穴墓群
24. 塔ノ熊窯跡
25. 塔ノ熊窯寺
26. ブリヤネ城跡
27. 深水邸埋納遺跡
28. 爰迫遺跡
29. 八面山東部地区遺跡



第2圖 森山遺跡周辺地形圖 (1/2500)



第3図 森山遺跡遺構分布図 (1/200)



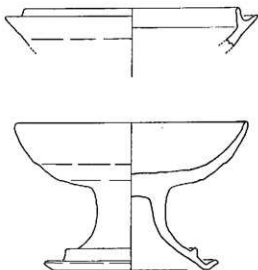
第3圖 森林遺跡遺構分布圖

第2章 調査の成果

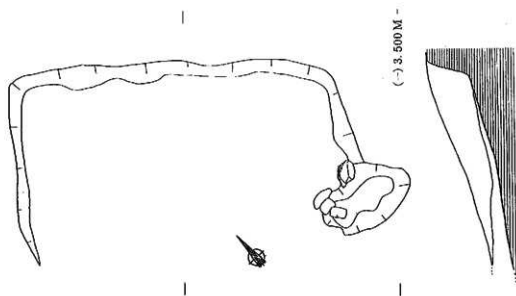
(1) 住居跡

SB2

この竪穴は調査区西側、南側の斜面に位置する。遺構の上部は削平されており、南壁は斜面のためにプランが流出している。よって北壁と東西壁の一部のみが残存している。平面プランは、コの字状をしている。この竪穴の床面には炭化物、焼土は見られない。東壁は土甃によってカットされている。土甃周辺には粘土状の塊が見られた。出土遺物は高杯、杯片等が数点出土しているのみである。



第4図 SB2 出土土器実測図 (1/2)

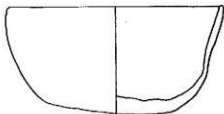


第5図 SB2 平・断面図 (1/30)

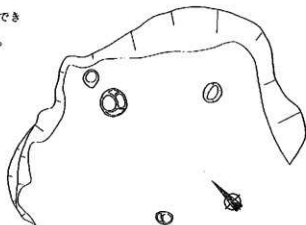
SB1

この竪穴は調査区中央、南側の斜面に位置する。南壁は斜面のため流出しており、北壁と東西壁の一部のみが残存している。平面はやや隅丸のコの字状をしている。現存している北壁の壁高は約70cmを測る。床面には炭火物、焼土は見られない。この竪穴に付随すると思われるピットは位置等から北側の2個である。

出土遺物は須恵器椀1点と、他に図示できない須恵器片が数点出土したのみである。



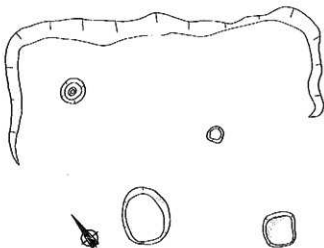
第6図 SB1 出土土器実測図(1/2)



第7図 SB1 平面図

SB4

この竪穴は調査区西側、丘陵のほぼ先端部に位置する。南壁は斜面のため流出しており、東西壁の一部のみが残存している。現存している北壁の壁高は約40cmを測る。床面には焼土と炭火物の混ざった土坑が2基検出され、これらの土坑は壁の一部に火を受けている。西側の土坑は南北約60cm、東西約50cm、深さ約30cm～15cmを測る。東西の土坑は東西、南北ともに約35cm、深さ約20cmを測る。

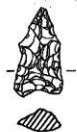


第8図 SB4 平面図(1/40)

SB6

この竪穴は調査区東側、南側斜面に位置する。遺構上部は削平が激しい。遺構平面はほぼ楕円の弧状を呈しており、南北約3.3m、東西約4.0m、北壁高約30cm、南壁高約6cm、東西壁高約15cmを測る。遺構中央部床面の一部に火をうけた跡があったが、土坑等は見られない。

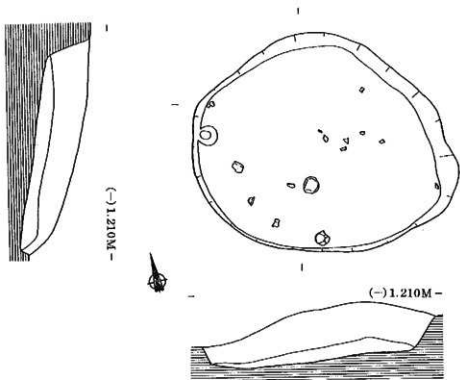
遺物は黒曜石の石鏃1点、壺、甕の弥生式土器片数点である。



第9図 SB6 出土石器実測図(1/1)



第10図 SB6 出土土器実測図(1/4)

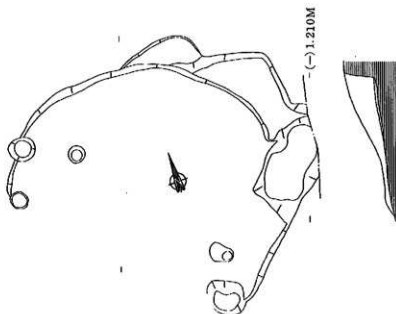


第11図 SB6 平・断面図(1/30)

SB7

この竪穴は調査区東側、南側の斜面に位置する。南壁は斜面のため一部が流出している。よって北壁と東西壁の一部のみが残存している。また東壁は土坑によってカットされている。この竪穴の床面には炭火物、焼土は見られない。

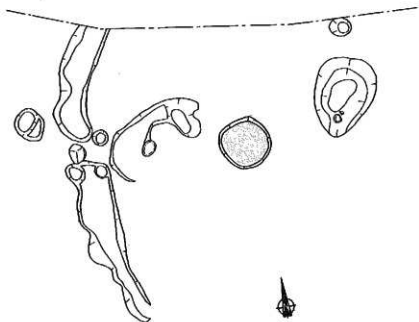
遺物は、弥生式土器等図示できない土器片が十数点出土したのみである。



第12図 SB7 平・断面図 (1/30)

SB8

この竪穴は調査区東側、丘陵のほぼ中央に位置する。遺構の東側は溝状遺構によってカットされており、西壁の一部がわずかに残るのみである。床面には焼土と炭火物の混ざった土坑が1基検出された。この土坑は南北約80cm、東西約80cm、深さ約25cmを図る。



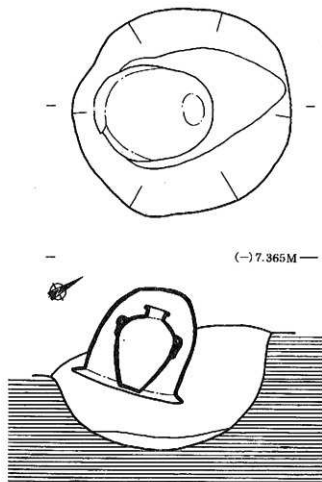
第13図 SB8 平面図 (1/30)

(2) 墳 墓

1号墳

この遺構は調査区のほぼ中央部、南側斜面に位置する。径約60cm、深さ約30cmの円形土坑にやや北側に傾いた形で骨蔵器が埋置されていた。土坑内の埋土には、炭火物や焼土が混ざっていた。

骨蔵器は須恵器双耳壺で、蓋として土師器の甕がこれにかぶまっていた。骨蔵物の内部からは、火葬骨が検出されている。

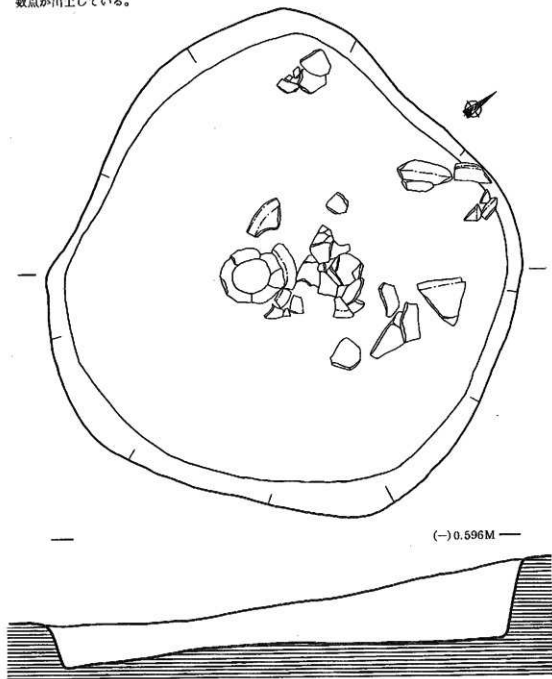


第14図 1号墓 平・断面図 (1/10)

(3) 貯蔵穴

SK 12

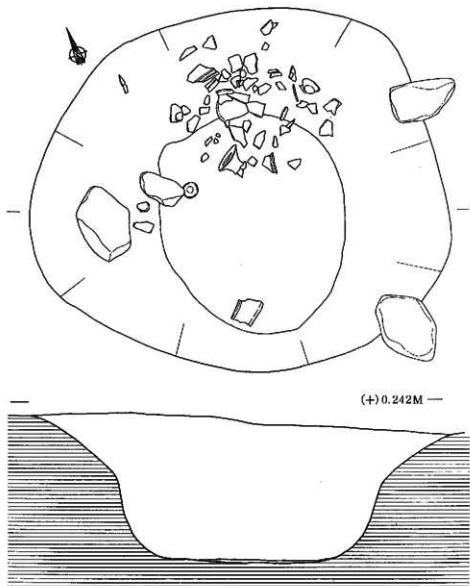
本土坑は調査区中央の斜面に位置する。平面プランはほぼ正円形を呈し、南北約1.3m、東西約1.35m、深さ約0.12～0.20mを測る。床面はほぼ平坦である。出土遺物は上坑中央に甕、壺等約20数点が出土している。



第15図 SK12 平・断面図 (1/10)

SK 17

本土坑は調査区東側、丘陵のはば頂部に位置する。平面プランはほぼ正円形を呈し、南北約1.8 m、東西約2.2 m、深さ約0.75 mを測る。出土遺物は甕、高杯脚部等の弥生式土器片が30数点出土している。

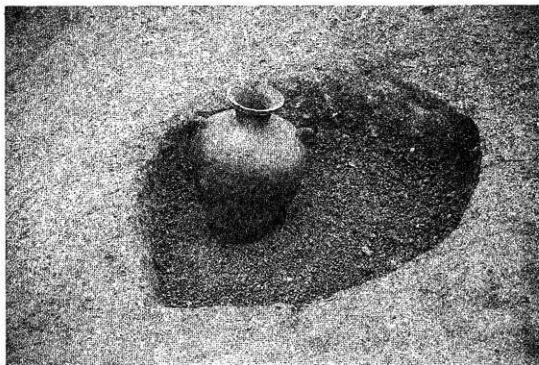
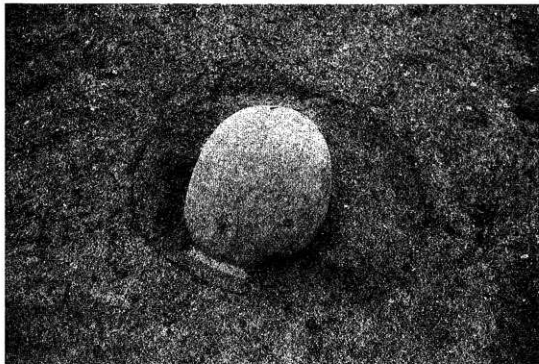


第16圖 SK17 平・断面図(1/20)

第3章 ま と め

今回の調査では8基の住居跡と3条の溝、1基の火葬墓等が確認された。このうち住居跡について、調査区東側で弥生時代中期中頃から後半の遺構が集中して確認された。中期後半の上器については口縁部が「く」の字状をなし、口縁端部を積み上げるタイプと口縁部がやや下がり気味の鋸先口縁を持つタイプが出土している。調査区西側では7世紀前半の須恵器を伴う遺構が確認されている。この古墳時代の遺構はレベル基準杭からマイナス4.0mの位置に横に並ぶように検出されている。

火葬墓は本調査でも1基確認されている。周辺には他の火葬墓は確認されておらず、この火葬墓は単独で営まれたものとする。骨蔵器の中からは多数の骨片が検出されており、今後この骨の調査をおこなう予定である。



森山遺跡 1号墓



森山遺跡 SB8



森山遺跡 SK17

森 山 遺 跡

1994年

発行 / 三光村教育委員会
(下毛郡三光村大字塚口)

印刷 / 昭和堂印刷
